「 事業を創る人材の育成 」
～産官学連携教育の可能性～

立命館大学経営学部
桐畑哲也

お願い

・実は、今日のシンポジウム自体が、

「 事業を創る人材の育成-産官学連携教育-」

の“こころみ”の一環なのです。

・CPUポイント？よりも・・・・・・・・・・

出来れば、「なんだか面白そう。

若返った気持ちで、一つ学生と議論してみるか！」と

マインドセットをお願いします。



「 事業を創る人材の育成−産官学連携教育−」

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA

「アントレプレナー特殊講義」シラバス

立命館大学 オンラインシラバス / Ritsumeikan University Online Syllabus

▲ 閉じる / close ▲

授業コード・科目名・クラス **Course code / Course title / Class**	開講期間 **Term**	曜日・時限(*1) **Day of the week, Period**	単位数 **Credit**	担当者名 **Instructor**
53291:アントレプレナー特殊講義Ⅱ (AP)/Special Lectures on Entrepreneurship Ⅱ (AP) 53386:アントレプレナー特殊講義Ⅲ (AQ)/Special Lectures on Entrepreneurship Ⅲ (AQ) 53387:特殊講義(自由選択)2(アントレプレナー特殊講義Ⅱ) (AP)/Selected Topics 2(Optional course for Special purposes)(Special Lectures on Entrepreneurship Ⅱ) (AP) 53388:特殊講義(自由選択)(アントレプレナー特殊講義Ⅱ) (AP)/Selected Topics(Optional course for Special purposes)(Special Lectures on Entrepreneurship Ⅱ) (AP)	前期 / Spring	前期 月 6(11-12)時限 / Spring MON 6(11-12)Period	2	桐畑 哲也/KIRIHATA TETSUYA

授業の概要 / Co
本授業は、産学協
レプレナー)に代表
としていて、本授業
本授業では、製品
営利活動法人日本
から当日の運営に
化、プロジェクトマネ
業省近畿経済産業
※本授業は、授業
受講生の到達目標
※原則として、変更
(1)製品事業化、プ
(2)新製品開発を担
事前に履修してお
経済学、経営学の
基礎的な知識を得

授業の概要 / Course Outline

本授業は、産学協同アントレプレナー教育プログラムの受講生を対象として開講される科目である。当該プログラムは、起業家(アントレプレナー)に代表される「自立的で創造的な人材」「起業家精神(アントレプレナーシップ)」に満ちた人材を社会に輩出することを目的としていて、本授業は当該プログラムの基礎科目の1つで、BKC4学部の3回生以上を対象とする。
本授業では、製品事業化に係る文献研究、及び、産官学連携シンポジウムの企画運営等を行う。授業の前半は、5月後半の特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会主催のシンポジウム「PMフォーラム2013関西」(5月25日開催)に向けて、企画段階から当日の運営に至るまで、学生の立場でシンポジウムへ参画、また、後半は、シンポジウムの論点を踏まえて、主として、製品事業化、プロジェクトマネジメントに係る文献研究を行う。本授業は、特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会、及び、経済産業省近畿経済産業局との産官学連携プロジェクトとして実施する。
※本授業は、授業の構成上、5月25日開催のシンポジウム「PMフォーラム2013関西」への参加が必須となる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

※原則として、変更されることはありません。
(1)製品事業化、プロジェクトマネジメントに関する理論的理解を深める。
(2)新製品開発を担うイノベーターに求められる実践力の養成を目指す。

Copyright (C) Tetsuya KIRIHATA

授業スケジュール

	テーマ /キーワード	担当
4月8日	イントロダクション 本授業のねらい、担当分け、アクティブラーニング、理論と実践	
4月15日	全体議論：講師・ファシリテーター：経済産業省近畿経済産業局　内海美保製造産業課長 議論(フォーラム全体の議論)	
4月22日	全体議論：講師・ファシリテーター：日本プロジェクトマネジメント協会 議論(プロセス思考、目的、成果物、成功基準、リスク管理)	
4月29日	全体議論及びグループワーク 議論(フォーラムとセッション運営)	
5月13日	全体議論：メンター：日本プロジェクトマネジメント協会、経済産業省近畿経済産業局 議論(フォーラムとセッション運営)	
5月20日	全体議論：メンター：日本プロジェクトマネジメント協会、経済産業省近畿経済産業局 議論(フォーラム運営)	
5月25日	**「PMフォーラム2013関西」フォーラム** **5月6日振替　変更注意**	
5月27日	文献研究グループ発表及び全体討論Ⅰ：日本プロジェクトマネジメント協会編(2013)第1部(30分発表＋1時間全体議論) 議論(プロジェクトマネジメントの概念、システム)	(奥村、柏原、**尾崎**)
6月3日	文献研究グループ発表及び全体討論Ⅱ：日本プロジェクトマネジメント協会編(2013)第2部(30分発表＋1時間全体議論) 議論(プロジェクトにおける組織管理、コミュニケーション、情報、戦略)	(**奥村**、柏原、尾崎)
6月10日	文献研究グループ発表及び全体討論Ⅲ：日本プロジェクトマネジメント協会編(2013)第3部(30分発表＋1時間全体議論) 議論(目標管理、リスク分析評価)	(奥村、**柏原**、尾崎)
6月17日	文献研究グループ発表及び全体討論Ⅳ:Takeuchi＆Nonaka(1986)pp.137-141左側25行目 (30分発表＋1時間全体議論) 議論(Built-in instability, self organizing project teams, overlapping development phases)	(河内、對中)
6月24日	文献研究グループ発表,及び全体討論Ⅴ:Takeuchi＆Nonaka(1986)pp.141左側26行目-(30分発表＋1時間全体議論) 議論(nultilearning, subtle control, transfer of learning)	(深川)
7月1日	フリー(グループ発表、講師招聘等) 皆さんが企画し、授業を創る	
7月8日	文献研究、事業計画書、採点演習(提出期日厳守) 他山の石、以て玉を攻くべし	
7月15日	文献研究、プロジェクト企画・運営成果報告書の採点フィードバック、優秀者の模擬発表 授業の終了が、学びの終わりではない	

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA



成績評価ーレポートー

（1）文献研究レポート

各自、以下の(1), (2)の書籍について、授業における発表等を参考に、文献研究リポート(Word)を、前記、指定提出日の授業の時間に提出する。各論文の論点を、「章」「節」「項」毎に整理した上で、全体を通して、自らの意見を記述すること。

(1)日本プロジェクトマネジメント協会編(2013)『プロジェクトの概念』近代科学社

(2)Takeuchi, Hirotaka and Ikujiro Nonaka(1986)The New New Product Development Game, Harvard Business Review, Jan-Feb, pp.137-146

（2）学習成果報告書

各自、日本プロジェクトマネジメント協会主催のシンポジウムの企画、運営に参画しての学習成果報告書を、前記、指定提出日の授業の時間に提出する。

※成績評価の割合は、40%。

※評価基準は、良いレポートを作ろうという努力の姿勢。具体的には、学習した理論を実践知としようとする努力、論理的レポートを書こうとする努力等を評価する。

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA

成績評価—平常点—

(1) 文献、事業計画書の発表

発表は、個人または、グループのどちらでも構わないが、今回(初回)の授業で、発表者の立候補を募る。発表者は、発表終了後、印刷したものを提出すること。評価の対象とする。

(2) 発表に対する意見、質問、コメント、改善案等

①授業内での発言

発表の際には、必ず議論の時間をとる。その際に、手を挙げて発言する。発言した者で、加点を希望する者は、その次の週に配布する発言申告メモに、発言内容を記載すること。授業への貢献度に応じて評価する。

②ツイッター

発表中に、ツイッターで、意見、質問、コメント、改善案等をアップする。アップした者で、加点を希望する者は、ツイッターのユーザー名については、学籍番号Shimeiを入力しておくこと。また、自らの発言部分を下線を引くなどして、授業における貢献を分かる形で、前記、指定提出日の授業の時間に、印刷し提出すること。授業への貢献度に応じて評価する。

※成績評価の割合は、60%

※「授業への貢献」度を平常点評価とする。「授業への貢献」とは、授業の参加者全員が互いに学びあう授業に作り上げようと個々が努力し、事前の予習、授業における発表、議論(質疑)への参加を主体的に行っているかどうかのこと。



理論と実践

理論と実践

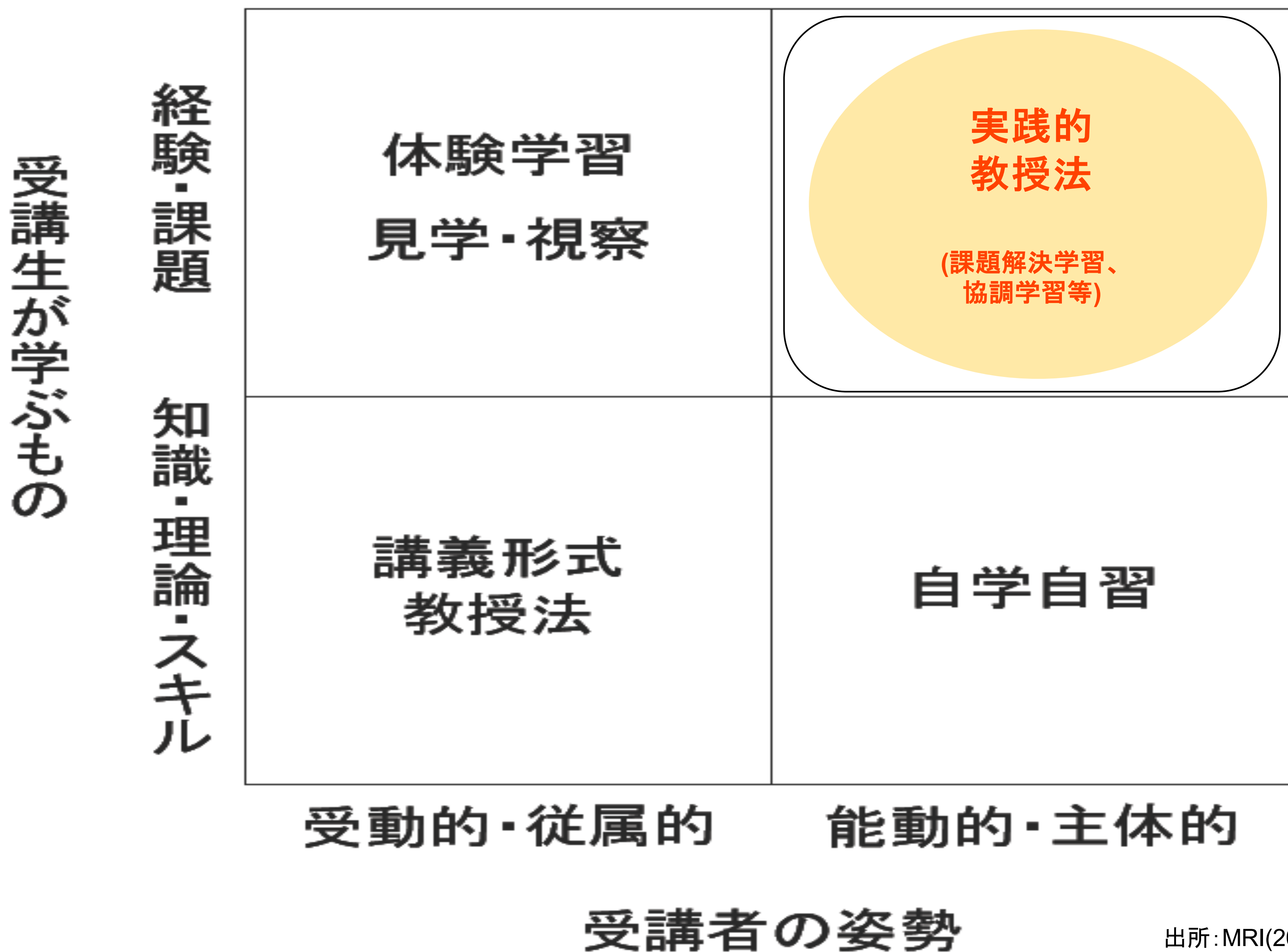




アクティブラーニング

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA

アクティブラーニング



出所:MRI(2006)

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA

実務で役立つ能力の獲得



学んだことをリアルの社会
でどう生かすか！！！
を意識して、授業を活用。

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA

アクティブラーニング

	授業スタイル	授業の目的	授業外学習スタイル	授業外学習の目的
従来の授業学習	聴講ベース（受身、画一、上下関係、一方通行）	知識習得（知識獲得重視）	個人ワーク（個人中心）	授業1回1回の予習・復習 テストにむけた暗記 （知識量の拡大に偏重）
アクティブラーニング	ディスカッションベース（積極性、主体性、個の確立、フラット、双方向）	知識をもとに実行する力の習得（実践力、実行力）	グループワーク（協調性）	ばらばらな知識ではなく、全体を見て、論理的に考える(レポート中心）（論理性、実践力、実行力の涵養）

・主体性：
自らの意見(仮説)を持つ、それを常に（リアルのフィールド、日々のディスカッション、グループワーク）の中で検証する姿勢(So　What？）
・コラボレーション：
授業参加者全員(学生及び教員）が、フラットな立場で、授業を作り上げる姿勢
（教員だけではなく、学生も、参加者に何か教えてあげる積極的姿勢が必要）

⇒ビジネス界の求めている人材？！

Copyright（C） Tetsuya　KIRIHATA



この授業、学生の本音は・・・・・・・

パネラー個別白熱セッションで、是非直接聞いてみてください。

Copyright (C) Tetsuya KIRIHATA



「 事業を創る人材の育成−産官学連携教育−」の“こころみ”２

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA



甲南大学マネジメント創造学部特設科目シラバス

授業科目名　:特設科目
担当者名　:桐畑哲也（キリハタ　テツヤ）
単位数　:2
配当年次　:3年次以上
開講期別　:2012年度 後期
曜日・時限　:10月以降隔週(5回×1.5時間)　1月下旬　2日間集中(10回×1･5時間)授業(外部の経営者とのコラボレーションの成果発表の場)
特記事項　:9月19日(水)12:20に説明会を開催します。
登録期間は、後期登録期間と同時期。
オフィスアワー　:授業終了後

講義の内容

広く企業経営全般から、仲間と共に、自らの学びたい内容を、いかに学ぶか、自ら企画立案、学生自身で授業自体を作り上げる。本授業は、主体性、実践力の養成が、最大の目的。担当教員の専門領域は、アントレプレナーシップだが、可能な限り、受講生の希望に対応する。また、関西の有望中小・ベンチャー企業の経営者、有識者、公的機関等との連携し、幅広い展開が可能な“場”を提供するが、それを生かすも殺すも、受講生次第。

到達目標

学びに対する高い意欲、コミットメント、努力を惜しまぬ学生のみを対象とする学生自身が、自らの学びたい内容を、いかに学ぶか、自ら企画立案し、運営することで、ビジネスパーソンとして、不可欠な主体性及び実践力を養成する。

Copyright（C） Tetsuya　KIRIHATA



この授業、学生の本音は・・・・・・・

今から、発表します。



「 事業を創る人材の育成−産官学連携教育−」の“こころみ”3

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA



「事業を創る人材の育成-産官学連携教育-」の試み3

特徴的な取り組みをピックアップ

全国9大学「キャリア教育」への挑戦

関西エリア

甲南大学

［兵庫県］

企業の生の声を聞き、文献を参考に「企業の強み」を読み解いていく

甲南大学マネジメント創造学部はまだ開設3年目の新しい学部。もともと少人数グループでプロジェクトを進め「共に学び、自ら行動する」学習スタイルを推進しており、今回の講義も企業の強みを理解することだけでなく、そのプロセスから学ぶことも重視している。そのため、学生の評価も研究4割、クラスへの貢献（学ぶプロセスの中での能動的な行動）6割の比重で行う。経営者の話を聞き、並行して文献で理論を学習。理論を各企業の実践として理解しながら、学びの定着もはかっている。



講義実施にあたって

●授業形態	●対象学部(学科)・学年および参加人数	●科目名	●実施時間数
リレー講義	マネジメント創造学部／2~3年生対象 20名	ビジネス研究プロジェクト「ニュービジネス」（正規科目）	270分（4・5・6限目）×15回

●ねらい　ニュービジネスをいかに創造するかの基本について、理論（ニュービジネス探索の基本的フレームワーク）と実践の両面から学ぶ。

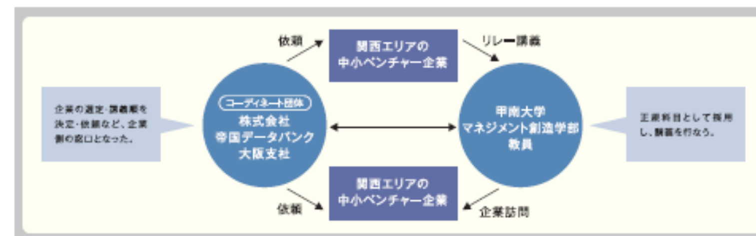
●課題　最初の5回で、5社のリレー講座は公開講座で高校生も視野に入れて広く聴講してもらえるスタイルに。その後に科目選択した学生には、グループで1社ずつ担当させ、専門文献を参考に各社の個別事例を読み解き、理解させていく。また最終レポートでは、担当企業の強みを分析した上で、当該企業が今後取り組むべき「ニュービジネス」を提案する。成績の基準は「提出された文献研究」40%、「クラスへの貢献（クラス運営への貢献、議論を促す発言、他学生の学びへの貢献等）」60%の配分で行なう。

●授業形態	●対象学部(学科)・学年および参加人数	●科目名	●実施時間数
魅力発信レポート	マネジメント創造学部／2~3年生対象 35名	ビジネス研究プロジェクト「キャリアデザインと企業戦略」（正規科目）	270分（4・5・6限目）×15回

●ねらい　キャリアデザイン構築およびキャリアデザイン構築に資する企業戦略分析アプローチについて、理論と実践の両面から学ぶ。

●課題　5社にグループ分けし、企業訪問は授業時間内と時間外に15時間以上行った。講義前半は企業訪問に行くチーム・演習をするチームと、多少バラバラな動きになりつつ、後半は全員で文献を参考にしながら担当企業の事例を読み解く講義。成績の基準は「ニュービジネス基礎」と同じだが、事例研究・文献研究以外に「個人のキャリア分析レポート」の提出も必須とした。

講義に関わる人たち



講義内容

回		テーマ	ねらい・内容
第1回	リレー講義	オリエンテーション	講義のねらい（事例研究、グループ・担当分け等）
第2回	リレー講義	中小ベンチャー企業による講演 1	経営理念を中心とした経営を理解 講師:朝日ゴルフ用品(株)
第3回	リレー講義	中小ベンチャー企業による講演 2	中小ベンチャー企業経営の魅力を理解 講師:アグリテクノ矢崎(株)
第4回	リレー講義	中小ベンチャー企業による講演 3	中小企業における新商品戦略について理解 講師:(株)住真福
第5回	リレー講義	中小ベンチャー企業による講演 4	キャリアとしての中小ベンチャー企業経営者について 講師:レック(株)
第6回	リレー講義	中小ベンチャー企業による講演 5	就職活動における会社の見方について理解 講師:(株)SRC
第7回	リレー講義	グループワーク・経過報告	グループワークの中間報告
第8~11回	リレー講義	文献研究・グループワーク	文献で理論を学びながら、各グループ担当企業を分析した上で、当該企業のニュービジネスを提案する
第12回	リレー講義	ニュービジネスグループ発表会	外部から審査員を招き、発表会を学生が企画・運営
第13·14回	リレー講義	グループワーク	課題提出 学生同士で互いに評価
第15回	リレー講義	グループワーク	個別フィードバック、講評

回		テーマ	ねらい・内容
第1回	魅力発信レポート	オリエンテーション	講義のねらい（事例研究、グループ・担当分け等）
第2~5回	魅力発信レポート	企業訪問 グループワーク	グループごとに担当企業に訪問し、企業の魅力についてグループワークでリポートを作成 訪問先:サラヤ(株)、(株)エレコム、(株)東洋バネ工業、(株)住真福
第6~10回	魅力発信レポート	文献発表 グループワーク	グループで、課題文献を「章」ごとにまとめて発表し、各担当企業の理解を深める
第11回	魅力発信レポート	グループワーク	レポート作成
第12回	魅力発信レポート	中間発表	発表会前に、学生同士で講評・指摘を行なう
第13回	魅力発信レポート	魅力発信レポート発表会	外部から審査員を招き、発表会を学生が企画・運営
第14回	魅力発信レポート	グループワーク	課題提出 学生同士で互いに評価
第15回	魅力発信レポート	グループワーク	個別フィードバック、講評

実施POINT

講義全体の"ストーリー性"を考慮。

学生達に中小企業の魅力が効果的に伝わるよう、企業選定だけでなく内容や登壇者のバランスなどにも細心の注意を払った。具体的には、「ニュービジネス研究」という科目内容に合わせ、精力的に革新に取り組んでいる元気企業の経営者を選定。各回のテーマや経営者のパーソナリティを考慮したストーリー性のあるリレーを構成した。

実施POINT

ただ「出会い」では終わらせない。

面白い社会人に出会うだけでも、学生には刺激になる。「今まで何度か出会いをつくる取り組みをしてきました。でも、それだけでは論理性のない、社会の厳しさを甘く見る学生が育ってしまう可能性が高いことがわかりました」（桐畑先生談）。自分なりの視点を持てる社会人に育てるため、大学院生レベルの文献を使い、理論で事例を読み解かせる講義とした。「本当は1年かけて理論を消化した上で、こうした事例研究をした方がもっと学びにつながるかもしれません」。

実施POINT

講義準備のプロセスから学ばせる。

リレー講義の事前依頼、魅力発信レポートの取材依頼、発表会の準備…。すべてプロセスは学生に任せた。学ぶ内容だけでなく、学びをつくりあげるプロセスの中で学生はプロジェクトを作っていくことを体験する。そこからさまざまな社会人としての基礎力を鍛え上げることができ、これも今回の講義の大きなねらいのひとつである。



講義を実施して

甲南大学担当教員より

産業界に役立つ人材輩出の点で、産官学連携教育の有効性を再認識した一方で、"企業人とのコミュニケーション"、"実践と理論教育の融合"等、教育上の舵取りの難しさも体感した。英米等の先進地域と比較し、我が国の産官学連携教育の歴史は浅い。我々教育者のレベルアップは当然だが、「産」「官」の関係各位の長期的な視点でのご理解ご協力をお願いします。

参加企業より

「夢」と「志」は異なる。「夢」は個人の視線の先にある光景であり、「志」は他者とのつながりの中で生まれる高次の未来世界である。「志」を持てば困難を受け入れられる。自己の限界と他者の力に気付くからである。この学びを通し仲間と共に見た未来・世界は「志」が生み出したものである。次世代に伝えるべきはここにある。（朝日ゴルフ用品(株)代表取締役社長 内本浩史氏）

コーディネート団体より

「中堅・中小企業の魅力を感じてもらいたい!」という経営者の熱い想いと、隠れた魅力をたくさん持っている"ピカピカの会社"との出会いが、受講した学生達の"キラキラとした眼差し"を生み出しました。また、単位付与される正規科目の中で、学生達が精力的に取り組んだからこそ得られる深い学び・気づきがありました。（株式会社帝国データバンク大阪支社）

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA



「 事業を創る人材の育成-産官学連携教育-」の試み3

朝日新聞　2011年10月9日　朝刊　38ページ　東京本社

中小企業と就活学生 縁結び

ミスマッチ解消へ 国・大学が仲人

大企業志向が強い大学生は就職難にあえぐ一方、中小企業には学生が集まらない。このミスマッチを解消しようと、有望な中小企業に大学生を送り込もうという動きが国や大学の間で活発化している。来春は従業員5千人以上の大企業だと競争率2倍の狭き門だが、300人未満の企業なら0・3倍。就職状況が厳しい中、学生も中小企業に目を向けはじめた。

社長が白熱教室

5日、兵庫県西宮市の甲南大西宮キャンパス。従業員約80人ながら種まき機で国内トップシェアのアグリテクノ矢崎（兵庫県姫路市）の福光康治社長(56)が講義した。

阪神大震災で巨額の負債を抱えたものの再起し、新たに起こした会社をここまで育て上げたという体験談。講義では圧倒され気味だった2〜3年生の約20人の学生たちも、座談会では次々と質問を飛ばした。

学生「どういう人に仕事を任せますか」

社長「人のせいにせずに自分で引き受けられる人」

学生「人材の評価は？」

社長「人は好きこのんで頭悪く生まれてこないし、運動神経悪く生まれるわけじゃない。その人が今以上成長しようとがんばっていれば、給料は上げる」

中小企業経営者の生の話を聞く機会を設け、その魅力を分かってもらう狙いの「白熱教室プロジェクト」。学生の大企業志向と中小企業の人材難というミスマッチを解消しようという経済産業省の補助事業「ドリームワークスタイル・プロジェクト」の一環だ。

複数の中小企業経営者のリレー講座「白熱教室」、学生が企業を取材しその魅力をまとめる「魅力発信レポート」が事業の柱。この秋、大学と地域の経済団体が協力し、東京、大阪、名古屋など全国11エリアで始まった。「就職活動をする際に視野を広げ、過度な大企業志向を変えるきっかけにしてほしい」（経産省産業人材政策室）という。



福光康治社長の話を聞く甲南大学の学生ら＝5日午後、兵庫県西宮市、諫山卓弥撮影

地元就職も魅力

新潟大キャリアセンターの西條秀俊准教授は「企業の規模より地元で働くことを重視したい、と考える学生が多い」と話す。そこで新潟大は、堅調な食品関連など地元の元気な中小企業とのインターンシップを通じた連携を強化し、ミスマッチ解消に動く。「県内の元気な中小企業も地元学生の採用に意欲的なので、学生にどんどん紹介したい」

農学部3年の渋谷悠花さん(20)は9月に2週間、従業員約150人の食品商社タケショー（新潟市）で就業体験をした。同社が扱う調味料を混ぜてラーメンの汁を作ったり、取引先の幹部の講演を聞いたりした。「有名な大企業だけでなく中小も含めて色々な企業を見て、社員の雰囲気がいい企業に就職したいと思った」と渋谷さんは話す。

田中利直社長にも、受け入れるからには狙いがある。「優秀な学生に入社してもらいたい。好印象を持ってくれれば、たとえ他社に入っても将来の取引が期待できるし、指導役の若手社員も説明する力が付く」

米菓大手の岩塚製菓（新潟県長岡市）で、9月に米の製粉から味付けまでの工程を体験した農学部3年、牧晃司さん(23)は「ネームバリューや全国レベルでの企業の大きさより、地元で働けることの方が魅力だ」と話した。（諸麦美紀、増谷文生）

中小希望者、過去最多

就職情報サイト「リクナビ」の岡崎仁美編集長の話　今年の4年生は中小企業への就職を真剣に意識して活動している。リクナビ登録者でみると、4月時点ですでに中小を中心に就活している学生が昨年より増えており、中小への就職希望者は1996年の調査開始以来最多だ。

ヒアリングしてみると、去年就活した先輩から「中小にも魅力のある企業があったぞ」とアドバイスされた影響が大きい。学生の考え方も変化している。4年生に企業選びで重視する点を聞くと、「自分がやりたい仕事ができる」「一緒に働きたいと思える従業員がいる」が多く、「家族・友人などに自慢できる」「グローバルに活躍できる」は少なかった。親や先生に「自分の価値観を持て」と言われて育ったため「自分をちゃんと見てほしい」と考える子が多いのだろう。

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA



「 事業を創る人材の育成-産官学連携教育-」の試み3

就活 中小企業アリかも

社長と白熱教室 若手も交流



福光康治社長の話を聞く甲南大学の学生ら＝5日、兵庫県西宮市、諫山卓弥撮影

大企業志向が強い大学生は就職難にあえぐ一方、中小企業には学生が集まらない。このミスマッチを解消しようと、有望な中小企業に大学生を送り込もうという動きが国や大学の間で活発化している。来春は従業員5千人以上の大企業だと競争率2倍の狭き門だが、300人未満の企業なら0・3倍。就職状況が厳しい中、学生も中小企業に目を向けはじめた。

5日、兵庫県西宮市の甲南大西宮キャンパス。従業員約80人ながら種まき機で国内トップシェアのアグリテクノ矢崎（兵庫県姫路市）の福光康治社長(56)が講義した。

阪神大震災で巨額の負債を抱えたものの再起し、新たに起こした会社をここまで育て上げたという体験談。講義では圧倒され気味だった2～3年生の約20人の学生たちも、座談会では次々と質問を飛ばした。

学生「どういう人に仕事を任せますか」

社長「人のせいにせずに自分で引き受けられる人」

学生「人材の評価は？」

社長「人は好きこのんで頭悪く生まれてこないし、運動神経悪く生まれるわけじゃない。その人が今以上成長しようとがんばっていれば、給料は上げる」

中小企業経営者の生の話を聞く機会を設け、その魅力を分かってもらう狙いの「白熱教室プロジェクト」。学生の大企業志向と中小企業の人材難というミスマッチを解消しようという経済産業省の補助事業「ドリームワークスタイル・プロジェクト」の一環だ。

複数の中小企業経営者のリレー講座「白熱教室」、学生が企業を取材しその魅力をまとめる「魅力発信レポート」が事業の柱。この秋、大学と地域の経済団体が協力し、東京、大阪、名古屋など全国11エリアで始まった。

大学独自に学生と企業の交流を図る取り組みもある。京都市北区の京都産業大は今月、夏のインターンシップを終えた3年生30人と地元企業10社の若手社員10人が参加する人材育成プロジェクトを立ち上げた。各企業の抱える課題への対応策を、学生と社員が4カ月かけて一緒に考える。

「学生は社会人との協働作業で社会を身近に知り、働くことをより現実的に考える機会になる。若手社員はリーダーシップや自社についての認識を深めることにつながり、双方メリットがある」と、担当の松高政・経営学部准教授は話す。（諸麦美紀、増谷文生）

希望学生 96年以来最多

就職情報サイト「リクナビ」の岡崎仁美編集長の話 今年の4年生は中小企業への就職を真剣に意識して活動している。リクナビ登録者でみると、4月時点ですでに中小を中心に就活している学生が昨年より増えており、中小への就職希望者は1996年の調査開始以来最多だ。

学生の考え方も変化している。4年生に企業選びで重視する点を聞くと「自分がやりたい仕事ができる」「一緒に働きたいと思える従業員がいる」が多く、「家族・友人などに自慢できる」「グローバルに活躍できる」は少なかった。

8 それでもなお新卒採用難

魅力を直接伝える試みも始まる

就職氷河期が続く中も学生の大企業志向は強く、中小企業は採用に苦労し続けた。一方でその流れを変えようという試みも出た。

自社の魅力を学生に直接伝える「ドリームワークスタイル・プロジェクト」はその1つだ。経済産業省の補助事業で、甲南大学マネジメント創造学部（兵庫県西宮市）では約30人の学生を前に珍味製造卸、伍魚福（神戸市）など5社の社長が事業への思いを語った。

就職情報会社を活用するなどしてきた伍魚福の山中勧社長は「今後はこうした場の活用も期待したい」と話す。担当する桐畑哲也准教授は「興味を持った会社に自分からアプローチする学生もいた。中小企業と学生の橋渡しとなる試みを広げたい」と話す。



甲南大ではドリームワークスタイル・プロジェクトを開催

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA



「 事業を創る人材の育成-産官学連携教育-」の試み3

11.10.30 産経（朝）

産学連携で中小企業の魅力を発信

中小企業の魅力を大学生に発信し、就職の指針に役立ててもらおうという取り組みが関西の私立大学で進められている。経済産業省とタッグを組んだ産学連携プロジェクトの一環で、企業側の人材確保をサポートする狙いもある。甲南大学マネジメント創造学部（兵庫県西宮市）では〝元気企業〟の経営者を招いた公開リレー講義を開催。逆境に負けない企業トップの前向きな生き方が学生のチャレンジ精神を鼓舞している。

〝元気企業〟の経営者招き公開リレー講義

甲南大学マネジメント創造学部

10月19日。阪急・西宮北口駅にほど近い甲南大マネジメント創造学部で開かれた公開講義「ニュービジネスの基礎」。教壇に立った冠婚葬祭業「レック」（神戸市）の社長、高橋泉さんが語りかけると、学生たちは真剣な表情で聞き入った。

高橋さんは1989年に会社を設立。阪神大震災では一時経営危機に直面したが、新郎新婦の自然な表情を撮影する婚礼デザインアルバムを日本で初めて発案したのをきっかけに会社が急成長。小さな結婚式場やファミリー葬など、現代のライフスタイルに合わせた独自の事業を次々と展開し、年商約100億円の企業に育て上げた。女性経営者として全国的にも注目されており、これまでの人生ストーリーや経営理念を学生に語ってもらおうと講義に招かれた。



女性経営者として全国的にも注目されている高橋さん（写真左）。これまでの人生経験や経営理念を学生に語る

社会での経験・魅力を多方面に伝える

公開講義は経産省が推進するプロジェクト「産学協働教育を通じた中小企業の魅力発信事業」の一環で今年9月から同学部の2、3年生や一般市民を対象に始まり、これまで高橋さんをはじめ、農業機械メーカー「アグリテクノ矢崎」や珍味製造卸業「伍魚福」など兵庫県内で活躍する5人の経営者が講師として教壇に立った。

また、阪神間のベンチャー企業の経営者を学生が直接訪問する授業も行われており、指導する同学部の桐畑哲也准教授は「社会に出ても、多彩なビジネスの提案ができる力をつけてもらいたい」と語る。

この取り組みを通し、学生には企業側への新規事業の提案や、会社の魅力を発信するレポートの作成などが課せられる。

この日は高橋さんを交えた質疑応答もあり、学生からは「これまで迷ったことは」「求める人材像は」「今後の海外展開は」など、積極的な質問が相次いだ。3年生の吹留有依さん(21)は「自分の人生を切りひらくうえで大いに参考になった」、2年生の安守麻人さん(19)も「前向きな会社のやる気と行動力に感動した」と語り、就職活動では中小企業も積極的に訪問したいという。

事業を支援する経産省・近畿経済産業局地域経済部産業人材政策課の内海美保課長は「関西には、元気で頑張っている中小企業が多く、学生にその魅力を知ってもらうのが狙い。企業側の人材確保にもつながることを期待しています」と話す。

こうした産学連携事業はほかにも京都産業大学、龍谷大学、近畿大学、流通科学大学の4大学で進められている。

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA



インプリケーション

- “日本型”事業創造人材とは？

- 産官学連携教育の果たすべき役割とは？

Copyright（C） Tetsuya KIRIHATA